

【緑地を楽しむ本】

『はじめまして』

近藤 薫美子 作・絵

偕成社



表紙から桜でいっぱいです（虫もいっぱいです）。表紙をめくっても、また桜でいっぱいです。

桜の樹を訪れる虫や鳥と共に、めぐる四季が描かれています。いや、その小さな虫や鳥たちがとてもかわいいのです。

この作者の絵本は、いつも小さな虫を絵のそこかしこに潜ませ、小さな言葉をしゃべらせています。探し絵のような楽しみもあります。マンガっぽいかもしれませんが、虫たちがこんなふうにおしゃべりをしているかもしれないと思うと、ちょっと楽しくなります。

今回は、桜の樹の力強さが際立って描かれているように感じます。小さな冬芽にも、力が感じられ愛おしい。

春になれば、咲く桜ですが、それは毎年、ひとつひとつ違う桜が咲いている。季節はめぐりくるけれど、その中で出会う命は一期一会のものなのだ、と。

一つ一つの花にしてもそうなのだと、「はじめまして」という言葉で、この絵本は教えてくれます。

（遠藤）